

大学進学がっないだ和歌山との出会い

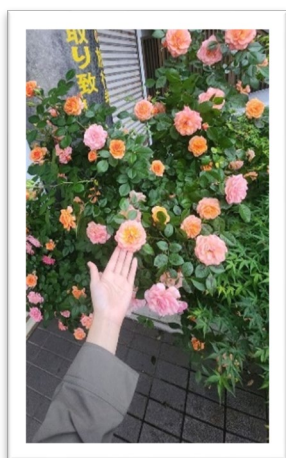
氏名 WIN PA PA AUNG

所属（経済学部 1 年生） 国籍ミャンマー

私は去年の今頃 6 月には日本留学試験（EJU）を受け終わり、大学の進学先を決めるまで非常に悩みました。経済学を専門として学びたいと思っていた私は、経済学に力を入れている大学を探しました。そこで、当時住んでいた大阪から通える範囲にあり、他の大学の経済学部と違って、自分の興味に合わせて色々なプログラムが設置されている和歌山大学を見つけました。そのカリキュラム構成にとっても魅力を感じ、ここに挑戦したいと決意しました。和歌山大学の受験に合格したことが、私と和歌山が深く結びつくきっかけとなりました。

新学期が始まった 4 月には、私は大阪から 2 時間ほどかけて通学しました。大阪から南海電車を利用して通学していた頃、私は電車の窓から見られる景色を楽しみにしていました。電車が和歌山に近づくにつれて、緑の山々の美しい景色や海も見ることができました。最初の和歌山に対する印象は山と海の両方が身近に感じられ、自然に囲まれている町だということでした。1 ヶ月ぐらい大阪から長時間通学し、5 月には和歌山に引っ越しました。そこで、本格的な和歌山での生活がはじまりました。

和歌山での新しい生活を通して、大阪という大都市との違いを 2 つの面から感じました。まず一つ目は公共交通機関です。大阪では電車の本数が多いし、利用できる路線や駅も備えているため、目的地へいろいろな方法で向かうことができます。一方、和歌山では、電車の本数が少ないため、住民たちは電車より自動車を利用する人が多いです。また、自転車より電動自転車を利用する人がよく見られます。その理由は、和歌山には坂道が多いからです。バスも利用できますが、本数が限られているため、移動のときには少し不便だと感じました。しかし、今では少しずつ慣れてきて、事前にバスの時刻を確認してから予定を立てるようにしています。その結果、時間を計画的に管理することが身についたと感じます。

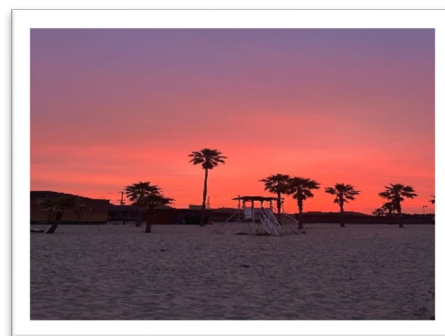


二つ目は、自然環境の違いです。大阪は高いビルや会社が立ち並び、街にも人が多いため、少し騒がしく感じました。一方、和歌山は山や海などを身近に感じ、道端や公園ではきれいな花や草木がたくさん見られます。特に、家の庭でみかんの木をよく見かけ、実がたくさんなっている様子も見ることができます。和歌山では日常生活の中で自然の豊かさを感じることができます。今の生活ではたくさんの花を見て、その美しさに魅力を感じます。自分でも花を育ててみたいという思うようになり、それが私の新しい目標一つになりました。このように、和歌山で約 1 ヶ月半生活していたことで、時間の管理を意識するようになったことや、花を育てたいという新しい趣味ができたことは、私自身の大きな変化だと思います。



休みの日には、番所庭園と磯ノ浦へ行きました。どちらの場所も自然に恵まれて、和歌山の魅力を感じました。番所庭園では、青空の下で美しい海と豊かな緑が広がっていて、とてもきれいな景色を見ることができました。また、波の音が静かで落ち着いた雰囲気が感じられ、心を癒されました。

磯ノ浦は朝焼けを見たかったので、早朝に行ってみました。広い海は間近で見ることができ、海辺に座り、波の音を聞くことでとても開放的気分になりました。また、きれいな朝焼けも見ることができ、自然の美しさを十分に味わいました。磯ノ浦で一つ気づいたのは早朝からサーフィンをしている人たちの姿です。朝5時半や6時頃から、海に入っている人がたくさんいて、サーフィンしようとしています。その熱心な姿にとっても感動しました。



大学生活についても、とても充実していると感じています。和歌山大学では留学生を支援する国際交流課があり、留学生向けのサポートが充実しています。また、日本語能力を向上させるための講義もあり、勉強しやすい環境が整っています。日本語の講義は様々な国からの交換留学生と一緒に勉強できます。そこで、新しい友達を作ることができ、異文化に触れることができます。さらに、経済学の講義でも、先生たちが分かりやすく丁寧に説明してくださるため、きちんと内容を理解しながら勉強できます。和歌山大学では、ミャンマー人の先輩がおらず、私が初めてのミャンマー人学生です。最初は不安や心細さを感じましたが、先生方や職員の方々の親切さを感じ、友達との交流することで大学の生活は楽しくなりました。

大阪から離れ、あえて知らない町だった和歌山を自ら選んで大学の生活を始めました。これから、和歌山でまだ行ったことがない場所に行ってみたり、和歌山ならではの食べ物を食べたり、自分の趣味である山登りなどに挑戦したいと思っています。

တက္ကသိုလ်ပညာရေးကတစ်ဆင့်ဆုံစည်းခွင့်ရခဲ့တဲ့ဝါကာယာမ မြို့”

ဝင်းပပအောင်

စီးပွားရေးမေဂျာ မြန်မာ

မနှစ်ကဒီလိုချိန်ဂျပန်တက္ကသိုလ်ဝင်ခွင့်စာမေးပွဲ (EJU) ဖြေဆိုပြီးနောက်၊ စီးပွားရေးပညာကိုအလေးထားသင်ကြားပေးသည့်ဝါကာယာမတက္ကသိုလ်တက်ရောက်ရန်ကိုယ်တိုင်ရွေးချယ်ခဲ့ပါသည်။

ဝါကာယာမတွင်နေထိုင်ရင်းအိုဆာကာနှင့်ကွာခြားချက်ကိုသတိထားမိလာသည်။ အိုဆာကာနှင့်မတူဘဲဝါကာယာမတွင်ရထားနှင့်ဘတ်စ်ကားနည်းသဖြင့်ဒေသခံများသည်ကားနှင့်လျှပ်စစ်စက်ဘီးကိုပိုသုံးကြသည်။ အစပိုင်းတွင်သွားလာရခက်ခဲသော်လည်းbusအချိန်ဇယားကိုကြိုတင်စစ်ဆေးတတ်လာသဖြင့်အချိန်စီမံခန့်ခွဲမှုပိုမိုကောင်းမွန်လာခဲ့သည်။ တိုက်တာအဆောက်အအုံများပြားသောအိုဆာကာနှင့်မတူဘဲဝါကာယာမတွင်လှပသောပန်းများနှင့်လိမ္မော်ပင်များကိုလမ်းဘေးနှင့်အိမ်ခြံဝင်းများ၌အလွယ်တကူမြင်တွေ့ရသည်။ ပန်းစိုက်ပျိုးလိုသည့်ဝါသနာသစ်တစ်ခုရရှိစေခဲ့သည်။

အားလပ်ရက်များတွင်BandokoGardenတွင်တိတ်ဆိတ်သောလှိုင်းသံများနှင့်အတူစိတ်အပန်းပြေခဲ့ရပြီး၊ IsonouraBeachတွင်လှပသောနေထွက်ချိန်ကိုခံစားခဲ့သည်။ ထို့ပြင်မနက်အစောကြီးကတည်းကရေလှိုင်းစီးနေကြသူများ၏တက်ကြွမှုအပေါ်လည်းအထင်ကြီးမိခဲ့သည်။

လက်ရှိတက္ကသိုလ်ကျောင်းသားဘဝသည်လည်းအလွန်ပြည့်စုံပါသည်။ ကျွန်မသည်ကိုယ်တိုင်ရွေးချယ်ခဲ့သောဝါကာယာမမြို့လေးတွင်ရှေ့ဆက်၍လည်းမရောက်ဖူးသေးသောနေရာသစ်၊ ဒေသစာများ၊ တောင်တက်ခြင်းအစရှိသည့်စိန်ခေါ်မှုအသစ်များကိုဆက်လက်လုပ်ဆောင်သွားချင်ပါသည်။